

校庭の桜のつぼみもほころび始め、木立の地に春の到来を告げるこの佳き日に保護者のご臨席を賜り、令和元年度 大分県立佐伯支援学校の卒業式を挙行できますことを心からお礼申し上げます。

中学部八名、高等部九名の卒業生のみなさん卒業おめでとうございます。先ほど卒業証書を一人一人に渡しながら、みなさんの緊張しながらも自信に満ちた姿にそれぞれの成長を感じることができました。

中学部卒業のみなさん、今年は地域に少し貢献しようと公民館の清掃活動や手作りのコースターを地域の方や木立小学校の先生方へと販売に出かけました。緊張をしましたが、みなさんの力を感じていただいたことや製作から販売までの経験を通して社会の仕組みを学習するなど大変よい機会となりました。卒業後は入学試験というハードルを乗り越え、四月から高等部です。これからも大人へ近づくための自分への挑戦を忘れず、失敗しても努力を続けるたくましさをも身につけてほしいと願っています。そのひたむきな姿が、後輩にとっての憧

れとなることでしよう

高等部卒業のみなさんは様々な機会を通じて、社会人として必要な生きる力を身につけてきました。みなさんはこれからも地域を支えていく大切な人財です。先生方から学んだことを忘れず、社会の一員としてしっかり生活してください。卒業後も周囲の人とお互いを思いやり、協力しあって、よりよく生きていく力をさらに磨いてほしいと思います。また、みなさんの周りには必ず助けてくださる方がいます。常に「感謝」の気持ちを忘れず、それぞれの持っている個性がキラリとかがやく人生をめざして一歩ずつ確実に歩んでください。私たち教職員はいつまでもあなた方を応援しています。

さて、卒業生の保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。また、本校の教育活動に対する、これまでのご理解とご協力に感謝申し上げます。これからも継続的かつ適切な支援を行って参ります。引き続き本校へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

また、このような少し寂しい卒業式になりましたことは残念

ですが、どうか、国内の現状を踏まえた、教育現場における危機管理対応としてご理解くださいますようお願い申し上げます。

最後に、卒業生の皆さんのこれからの健康とご多幸をお祈りしまして式辞といたします。

令和2年3月4日

大分県立佐伯支援学校 校長 安元正彦